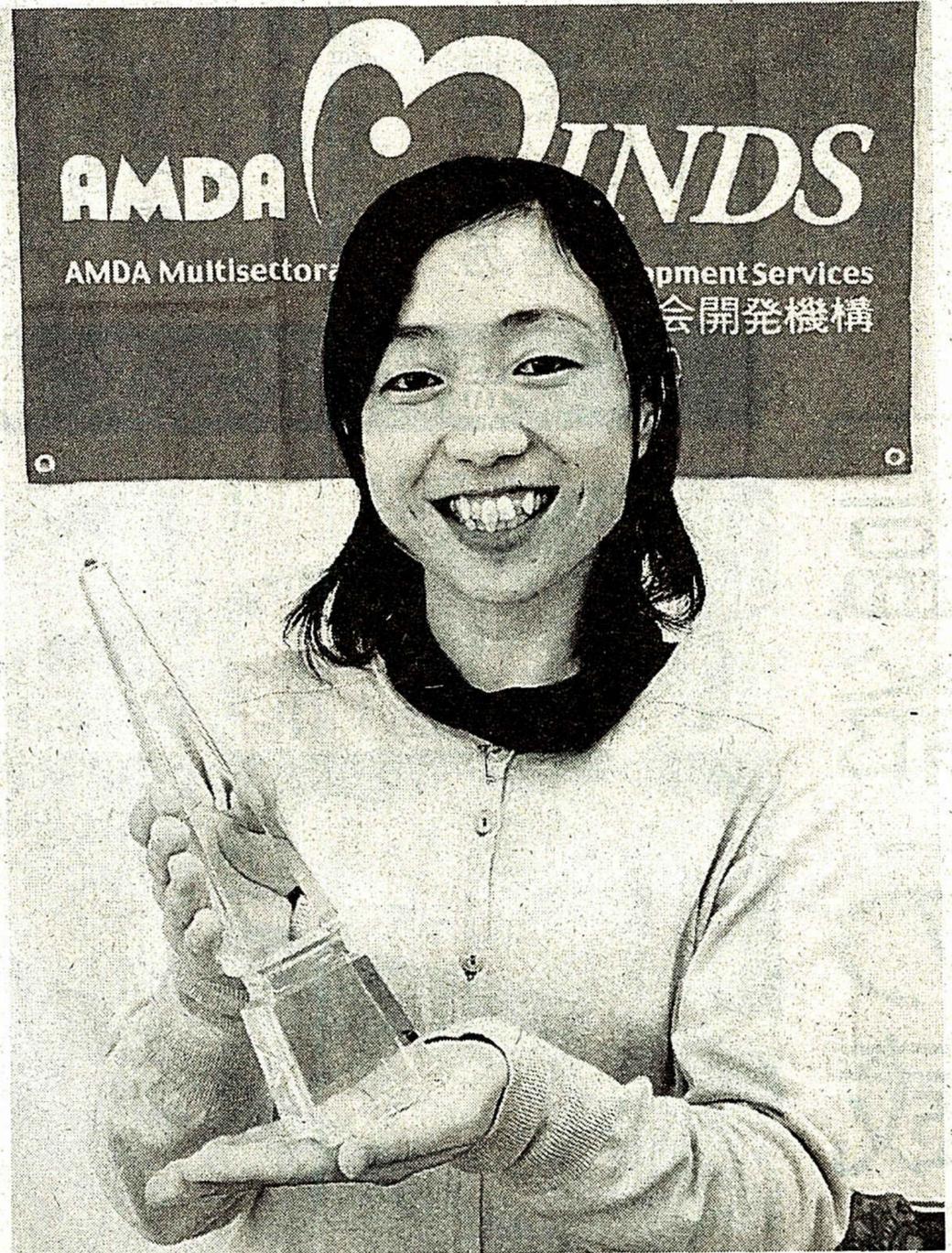


光に女性支援者ジュンホン

賞受賞「象徴の明日」さん山陰・NGO職員

ホンジュラスでの活動が評価され、「第4回明日の象徴」を受賞した陰山亮子さん

— 北区蕃山町のAMDA社会開発機構で



泊できる。安全な出産環境を作り、妊産婦や新生児の死亡率を下げ目的がある。陰山さんは利用地域の住民らでつくる委員会に参加。貧富の差で不満を持つ人の話を聞いたり、意見が食い違う委員間を仲裁するなど根気強く活動した。次第に妊婦の家の必要性を認識して使命感を持つ委員も現れ、施設の運営が軌道に乗ったという。

中南米などで貧困・健康問題に取り組むNGO「AMDA社会開発機構」（北区）のホンジュラス担当職員、陰山亮子さん（35）が今月、医療保健分野で活躍する若者に贈られる賞「明日の象徴」（全日本病院協会など共催）をNGO・ボランティア部門で受賞した。妊婦支援施設の運営体制構築などが評価された。陰山さんは「住民の生活を良くする活動に関わり続けたい」と決意を新たにす。

【久木田照子】

「妊婦の家」運営に尽力

陰山さんは島根県出雲市出身。大学生時代、発展途上国を訪ねて学ぶツアーに参加し、子どもの貧困問題に関心を持ったという。卒業後の2003年から青年海外協力隊としてエ

クアドルで、06、08年には外務省在外公館派遣員としてニカラグアで勤務。12年からAMDA社会開発機構調整員としてホンジュラスに常駐する。

同国南部の山間部では、近所に出産可能な病院がない妊婦の現状に直面した。通院で数時間歩いたり、胸まで

水につかって川を渡る妊婦に出会い、病床不足などのため出産前に入院できずに命を落とす場合もあることを知った。

陰山さんが支援した施設「妊婦の家」は、医療機関の近くにあって出産前後の女性が宿

「明日の象徴」は今回が第4回。6部門があり、地域医療に取り組む医師ら6人が受賞。今月10日、表彰式が東京都内で行われた。

た。